

ふるさと 資料紹介

= ③5 =

古文書にみる
近世庶民のくらし③

灰部屋と火事

天明六年（一七八六）十一月、深夜の二時を過ぎたころでした。太田村の半兵衛の「灰部屋」から出火し、村人の懸命な消火活動も空しく、十三軒が焼けてしまいました。

当時、煮炊きや暖房は、すべて薪^{まき}などで行われており、大量の灰が出ますが、実はこれが立派な商品として流通していました。肥料のほか、コンニャク作り、暖房用の火鉢にも必要なものでした。余れ

ば、問屋が買ってくれました。そのため「灰部屋」を作っている家も少なくありませんでした。ところが、残り火のあるまま入れてしまうと、前に入れた灰の中にある炭に引火し、火災の原因になりました。灰を大事にし、家を灰にしてみました。

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

（平成六年四月分）

○古いタンス

（遠山恵美子さん／伊深町）

○カメラなど二点

（酒向時夫さん／山之上町）

○戦中の服など二点

（兼松豊志さん／本郷町）

市社会教育課文化係（内線三六一）まで情報をお寄せください。

ふるさと資料紹介

天明六年十一月、太田村の半兵衛の灰部屋から出火し、十三軒が焼けてしまいました。

一冊必なるお宝は、村中へお返しを近き